

令和4年度使用教科用図書審議結果
社会(歴史的分野)

発行者の 番号略称	書名	編集の趣旨と 工夫	学習指導要領との 関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
225 自由社	新しい 歴史教科書	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着に向け、「歴史の言葉」や「人物クローズアップ」を設けて用語や人物の解説を掲載するとともに、章末に「時代の特徴を考えるページ」を設けてまとめることができるようにしている。 日本の歴史を振り返ってその特色を考察することができるように、「歴史を学んで」のページを掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示されている目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を重視している。 教育内容の主な改善事項のうち、「言語活動の充実」に関連して、時代の特徴をまとめたり、意見交換したりすることを重視した構成としている。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人物クローズアップ」のコラムを設け、歴史上の人物への興味や関心を高めるように、その人物の解説を掲載している。 本文の記述を補う注を設けて解説を掲載したり、「歴史の言葉」や「知っ得ポイント」を設けて事象の説明や補足を掲載したりしている。 各ページに「歴史モノサシ」として年表を設けて単元で扱うおおよその時期を示したり、章末に「復習問題のページ」を設けて知識を確認するページを掲載したりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各見開きのページに学習課題を示すとともに、単元を学習したあと挑戦したいワンポイントの課題として「チャレンジ」を掲載している。 自分の考えを伝え合う活動ができるように、章末に「時代の特徴を考えるページ」を掲載している。 日本の歴史の特色について考察することができるように、巻末に「歴史を学んで」を掲載している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 序章「歴史のとらえ方」では、興味ある人物について調べる設定で、800字の人物伝記を掲載している。 調べ方を確認したり、さらに調べたりできるように、章末に「調べ学習のページ」を掲載している。 <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域素材に関連して、「人物クローズアップ」のコラムに、小田原市生まれの二宮尊徳や、終戦後、昭和天皇が川崎市の工場を訪問したことを掲載している。また、1970年代初頭の川崎のコンビナートの写真を掲載している。 	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文は見開き2ページで1つの学習単位になるよう各授業の学習課題を設定している。 時代や人物を比較したり、時代の特徴を表現したりして、単元で学んだことをまとめられるように、各章末の「時代の特徴を考えるページ」を設けている。 序章で、学習の導入として年代の表し方、調べ方やまとめ方などを掲載している。 <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> AB判を採用している。 年表について、巻末の綴じ込みや、各ページの下部などに掲載している。 	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章の扉や各ページで、キャラクターが疑問を投げかけたり、解説したりしている。 世界遺産、国宝、重文などのマークを掲載している。 歴史上の文書・文献がもとになっている資料であることを示すマークを掲載している。 見開きページで学習する時代がわかるように、左下のページ番号の横に年表を掲載している。
17 教出	中学社会 歴史未来をひらく	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野の学習に必要な知識や技能の習得に向け、「歴史を探ろう」や「歴史の技」コーナーを、見開きページごとに「確認！」「表現！」のコーナーを設け、知識の確認や表現活動ができるようにしている。 歴史を振り返り未来を構想する「歴史学習の終わりに」のページを掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示されている目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を重視している。 教育内容の主な改善事項のうち、「言語活動の充実」に関連して、見直し、振り返りの学習活動を重視した単元構成としている。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 用語について「側注解説」で説明している。各章のまとめで、年表や地図と関連付けて用語確認をできるようにしている。 各章の導入で「学習を始めよう」のページを設け、時代の特徴の理解に向け、絵画資料や写真を掲載している。 歴史学習の基本的な技能を身に付けることができるように、「歴史の技」コーナーでは、資料活用に関わる問いや解説を設けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章のまとめと表現のページでは、多面的・多角的に時代の特徴をつかめるよう、年表や地図を掲載し、その時代の特徴を説明するコーナーを設ける構成にしている。 各見開きの左ページの学習課題の欄に、時代の流れを把握しやすいよう、時代スケールを掲載している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章の導入では絵画資料や写真を掲載し、前単元末の絵画資料や写真と比較して、時代の変化に対して興味関心を高める設問を設けるとともに、「学習を始めよう」のページを設け、時代の特徴を示す資料を掲載している。 「歴史学習の終わりに」で自然災害を取り上げ、歴史の学びをどのように生かしていくか問いかけ、現代の課題を考えるページを掲載している。 <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域素材に関連して、神奈川県事例として鎌倉市や箱根町等の事例や、現代の単元の「身近な地域の歴史を調べよう」のページで、川崎市の土地利用、人口や産業の移り変わり、臨海部を掲載している。 「歴史学習のおわりに」では、現代の課題を考える際の参考としてSDGsの目標を示している。 	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 章の導入には章全体に関わる問いを、章末には時代の特徴を振り返る問いを掲載している。各節の導入に節のテーマ、節のまとめでキーワードを示し、節を振り返る欄を設けている。 見開き左ページで学習課題、右ページで学習したことをまとめ確認したり表現したりする「確認！」「表現！」を設定している。 各章の導入に「まなびリンク」を設け、官公庁や博物館のサイト等にアクセスできる二次元コードとURLを掲載している。 <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> AB判を採用している。 巻末の年表はとじ込みを開くことで、全体を見通せるようにし、日本と世界の歴史を併記している。また、裏面には世界地図の歴史として、古代から、中世、近世にかけての世界地図の変遷を掲載している。 	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各見開きページでキャラクターが登場し、学習課題に対しての疑問を提示している。 「見やすく読みまちがいくいユニバーサルデザインフォントを使用しています」と掲載している。 「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」と掲載している。 「歴史をさぐるう」ページの下部には、公民、地理との関連を示すマークを掲載している。